

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表 の年月	発行所、発表雑誌又は 発表学会等の名称	概要	編者・著者名（共著 の場合のみ記入）	該当頁数
(著書) 1. 『三昧耶戒序／秘密三昧耶仏戒儀 ／平城天皇灌頂文／(弘仁)遺 誠』	共著	2003.12	四季社	『秘密三昧耶仏戒儀』の現代語訳ならびに語注 を担当。	宮坂宥勝・大沢聖 寛・佐藤正伸・北川 真寛・佐々木大樹	
(学術論文) 1. 秘密莊嚴住心の存在論的構造につ いて	単著	1997.3	密教文化 (198)	空海の十住心思想における秘密莊嚴住心におけ る身心の定義について、M・ハイデッガーの実 存論との対比を行い、その相違点を論じた。 (査読有り)		49-63
2. 『般若心経秘鍵』の撰述年代につ いて—諸開題に見られる経題解釈 法からの考察—	単著	2001.2	高野山大学大学院 紀要 (5)	近来、空海最晩年の撰述と言われてきた『般若 心経秘鍵』の撰述年代について、その経題解釈 方法が、天長前半期で否定される方法であるこ とから、天長年間中頃までの撰述である可能性 を指摘した。(査読有り)		1-16
3. 平安時代初期における法身説法説 の受容	単著	2003.3	日本印度学仏教学 研究 (51-2)	天長六本宗書に教えられる玄叡の『大乘三論大 義鈔』における法身説法批判を取り上げ、空海 当時の顕密対弁に対する反応を検証した。(査 読有り)		652-654
4. 『弁頭密二教論』巻上における 「或者」について	単著	2004.12	高野山大学大学院 紀要 (8)	『弁頭密二教論』巻上で空海が批判した、『法 華經』教主を法身と解釈する「或者」につい て、それが伝教大師最澄を意識したものと考え られることを指摘した。(査読有り)		1-16
5. 『華嚴宗一乗開心論』における 「円円海」解釈—『弁頭密二教 論』との関連を通して—	単著	2004.12	日本印度学仏教学 研究 (53-1)	天長六本宗書に教えられる普機の『華嚴宗一乗 開心論』における『釈摩訶衍論』解釈を、空海 の『弁頭密二教論』における解釈と比較し、空 海の顕密対弁に対する空海当時の反応を検討し た。(査読有り)		46-49
6. 『二教論』における『大智度論』 法性身説法について	単著	2005.3	密教学研究 (37)	『二教論』で空海が用いた『大智度論』所説の 法性身説法について、空海当時の理解ならびに それに基づく批判を踏まえつつ、空海が『大乘 起信論』および『釈摩訶衍論』の始覚門から、 この法性身説法を解釈している可能性を指摘し た。(査読無し)		59-73
7. 『弁頭密二教論』における『楞伽 經』法仏説法の解釈について—特 に法相教学との対比を通じて—	単著	2005.12	密教文化 (215)	空海が独自の解釈を行ったとされる『楞伽經』 所説の法仏説法について、それが空海当時の法 相教学では常識的に論じられている点、および その上で空海がその内容を大きく変容させてい る点を指摘した。(査読有り)		1-28
8. 「一乗経劫」について—即身成仏 思想に関する問題—	共著	2006.2	高野山大学密教文化 研究所紀要 (19)	空海の提唱した即身成仏思想について、華嚴・ 天台の成仏論との関連を問題とした『宗義決撰 集』所収の論義である「一乗経劫」について、 天台宗における議論と共に検討を加えた。(査 読有り)	北川真寛	43-70
9. 『大日経開題』における「神変」 と「加持」について	単著	2010.3	密教学研究 (42)	『大日経開題』における「神変」と「加持」に ついて、伝統教学における註釈を中心に検討し た。(査読無し)		135-150
10. 『御遺告』における順暁について	単著	2014.3	空海研究 (1)	『御遺告』において恵果和尚の兄弟弟子と位置 付けられる順暁について、それが東密への蘇悉 地流入の影響によるものと推論し、検討を加え た。(査読有り)		59-85
11. 凡聖六大について	単著	2015.2	高野山大学大学院 紀要 (14)	『宗義決撰集』所収の「凡聖六大」の論義を、 その他の論義書の論義とともに検討し、この論 義が「秘密灌頂」の口決と密接な関係を有し、 その文脈で論じられていることを指摘した。 (査読有り)		1-15
12. 空海の『大智度論』解釈について	単著	2015.3	空海研究 (2)	『弁頭密二教論』で展開される『大智度論』を 用いた「二重二諦」説が、『金剛頂經』と『大 日経』における修道論的観点から導き出された 空海独自の解釈であることを指摘した。(査読 有り)		15-35
13. 覚海が飛んだ日	単著	2015.3	密教学会報 (53)	高野山教学の祖ともされる覚海大徳が天狗と なったという伝説について、覚海の伝記資料や 未翻刻資料の教相史の資料を検討し、この伝説 が江戸時代の初期まで確認できないことを指摘 した。(査読無し)		297-319

14. 『弁頭密二教論』における「宗極」について		2016.3	空海研究 (3)	『弁頭密二教論』巻上で「宗極」とされる概念について、それが空海当時どのような意味で理解されていたのかについて検討し、それが『涅槃経』の「一切衆生悉有仏性」との関連で理解される概念であったことを指摘した。(査読有り)		77-96
15. 「六大四曼互為能生」について		2016.3	密教学研究 (48)	『宗義決撰集』所収の「六大四曼互為能生」をとりあげ、その内容が「灌頂の極位」の口決にかかわることを指摘した。(査読無し)		51-65
16. 「等覺十地不能入室」考		2017.3	空海研究 (4)	『弁頭密二教論』巻上で述べられる「等覺十地不能入室」について、それが『不空表制集』を典拠とし、「灌頂」儀礼を表現したものであることを論じた。(査読有り)		86-110
17. 「理法身説法」について		2017.2	高野山大学大学院紀要 (16)	『宗義決撰集』所収の「理法身説法(宥快)」をとりあげ、その内容が単なる教学上の議論ではなく、宝門相伝の「灌頂の極位」の口決との関係で発生した議論である可能性を指摘した。(査読有り)		1-14
18. 『宗義決撰集』における「遍計所執捨不捨」について		2018.2	高野山大学論叢 (53)	明和版『宗義決撰集』に追加された「遍計所執捨不捨(宥快)」の論義を取りあげ、明和版『宗義決撰集』の編者である快弁が、先行する慶安版『宗義決撰集』所収の「遍計所執捨不捨(快実)」が宝門相伝の内容と異なることから、宥快のものを追加した可能性があることを指摘した。		1-14
(その他)						
1. 1. 真言密教における「神変」 —衆生救済と即身成仏—	単著	2016.2	京都・宗教論叢 (10)	チェーンレクチャーテーマ「人間にとって救済とは何か」に基づく講義の概要。大乘仏教の「神変」思想が、救済論と密接な関わりを有することを確認し、その思想が空海の即身成仏思想にまで継続することを示した。		43-45
2. 金剛三昧院本『御手印縁起略解』 について	共著	2016.3	高野山大学密教文化研究所紀要 (29)	高野山大学図書館蔵・金剛三昧院寄託の快弁撰『御手印縁起略解』は、その存在が指摘されていたものの、翻刻されておらず未見の資料であった。今回その翻刻調査を通して、金剛三昧院本の『略解』が快弁自身の原本である可能性を指摘した。解題部分を担当。(査読有り)	森本一彦 川染龍哉 木下智雄 榊原啓優	1-49
3. 『天正高野治乱記』六本対観表		2017.2	高野山大学論叢 (52)	織田信長による高野山攻めを、高野山側の視点から描いた軍記物語である『天正高野治乱記』を通して、近世高野山における宗教意識・歴史認識を知るための基礎作業として、写本六本を対観した。	榊原啓優 木下智雄 高柳健太郎 浜畑圭吾	31-59

著書、学術論文等の名称	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要	備考
(口頭発表)				
1. 平安時代初期における法身説法説の受容	2002.7	日本印度学仏教学会第53回大会 (於 東国大学校)	天長六本宗書に数えられる玄叡の『大乘三論大義鈔』における法身説法批判を取り上げ、空海当時の顕密対弁に対する反応を検証した。	
2. 『華嚴宗一乘開心論』における「円円海」解釈—『弁顕密二教論』との関連を通して—	2004.7	日本印度学仏教学会第55回大会 (於 駒澤大学)	天長六本宗書に数えられる普機の『華嚴宗一乘開心論』における『釈摩訶衍論』解釈を、空海の『弁顕密二教論』における解釈と比較し、空海の顕密対弁に対する空海当時の反応を検討した。	
3. 『二教論』における『大智度論』法性身説法について	2004.1	日本密教学会第37回学術大会 (於 総本山金剛峯寺)	『二教論』で空海が用いた『大智度論』所説の法性身説法について、空海当時の理解ならびにそれに基づく批判を踏まえつつ、空海が『大乘起信論』および『釈摩訶衍論』の始覚門から、この法性身説法を解釈している可能性を指摘した。	
4. 『大日経開題』における「神変」と「加持」について	2009.1	日本密教学会第42回学術大会 (於 真言宗豊山派宗務所)	『大日経開題』における「神変」と「加持」について、伝統教学における註釈を中心に検討した。	
5. 『御遺告』における叡山天台の影響—『御遺告』に表れる順暁について—	2013.7	空海学会設立研究発表会 (於 高野山大学)	『御遺告』において惠果和尚の兄弟弟子と位置付けられる順暁について、それが東密への蘇悉地流入の影響によるものと推論し、検討を加えた。	
6. 空海の『大智度論』解釈について	2014.5	空海学会第1回研究発表会 (於 高野山大学)	『弁顕密二教論』で展開される『大智度論』を用いた「二重二諦」説が、『金剛頂経』と『大日経』における修道論的観点から導き出された空海独自の解釈であることを指摘した。	
7. 東密における『弁顕密二教論』の受容—「不同報身毘盧遮那」解釈を中心に	2015.7	密教研究会学術大会 (於 高野山大学)	『弁顕密二教論』巻下に引用された『聖位経』における「不同報身毘盧遮那」の解釈について、それが9～10世紀末の日本密教では道場観との関連で論じられていることを指摘した。	
8. 『弁顕密二教論』における「宗極」について	2015.9	空海学会第2回研究発表会 (於 高野山大学)	『弁顕密二教論』巻上で「宗極」とされる概念について、それが空海当時どのような意味で理解されていたのかについて検討し、それが『涅槃経』の「一切衆生悉有仏性」との関連で理解される概念であったことを指摘した。	
9. 六大四曼互為能生について	2015.10	日本密教学会第48回学術大会 (於 真福寺)	『宗義決撰集』所収の「六大四曼互為能生」をとりあげ、その内容が「灌頂の極位」の口決にかかわることを指摘した。	
10. 「遍計所執捨不捨」について	2016.7	密教研究会学術大会 (於 高野山大学)	『宗義決撰集』に収録されている2本の「遍計所執捨不捨」の内容を取り上げ、それが相反する論理で同じ結論を論じていることを指摘した。	
11. 「等覺十地不能入室」考	2016.12	空海学会第3回研究発表会 (於 札幌プリンスホテル)	『弁顕密二教論』巻上で述べられる「等覺十地不能入室」について、それが『不空表制集』を典拠とし、〈灌頂〉儀礼を表現したものであることを論じた。	
12. 初期真言教団における八祖相承説について—空海撰述書との関係を中心に—	2017.9	空海学会第4回研究発表会 (於 益子町中央公民館)	血脈の等葉・不等葉説を検討し、空海やその直弟子は等葉説を取っていたにもかかわらず、青龍寺の血脈が重要視されて不等葉説が流入したが、10世紀に入って再び等葉説を意識した血脈となっていることを指摘した。	
13. 真如と真言—『十住心論』巻第9 深秘積段における「真如」解釈	2018.9	空海学会 第5回研究発表会 (於 天野地域交流センター)	『秘密曼荼羅十住心論』巻第9における「真如」解釈を通して、空海は真如を、真言を機根に応じて説明したものと理解していることを指摘した。	

所属	文学部	職名	准教授	土居夏樹	大学院の授業担当の有無 (有)
教育活動					
教育上の主な業績		年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
①教育方法等に関する実践 ・講義式授業における受講生の主体的参加の実践		平成25年4月 ～現在に至る。	高野山大学文学部密教学科における祖典講読Ⅰ・Ⅱ(必修科目・2年次配当・前後期・各2単位)ならびに祖典講読Ⅲ・Ⅳ(必修科目・3年次配当・前後期・各2単位)において、当該授業の受講者に対し、テキストとなる文献の暗唱を課すとともに、毎回教授内容の理解度を深めるために、参加受講生に対して質問を行い、受講生自身に内容を表現させている。		
・ディベート形式による伝統 教学理解の推進		平成25年4月 ～現在に至る。	高野山大学文学部密教学科における真言密教講読演習(必修科目・3年次配当・半期・2単位)において、学生間のグループを作り、関心の課題についての発表・質疑応答を実施し、自分自身の理解で真言密教の教義を説明すること、ならびに反対意見との論理的応答の必要性を実感させることに努めている。		
②成績等に関する実践 ・複数回テストによる成績評価の実践		平成25年4月 ～現在に至る。	上述の祖典講読Ⅰ・Ⅱならびに祖典講読Ⅲ・Ⅳにおいて、単位取得まで学期内試験(筆記試験・レポート)を繰り返し行ない、次学年進級時に必要となる基礎的知識の修得を徹底した。		
③学習支援に関する実践 ・授業外学習の支援		平成25年4月 ～現在に至る。	上述の通り毎回配布資料を作成し、受講生が予習・復習に活用できるようにしている。また、オフィスアワー及びメール等にて、受講生からの相談を随時受け付けるとともに、希望者には輪読会・勉強会などを行っている。		
・留学生用予備授業の実施		平成30年4月 ～現在に至る。	漢字・漢文等の学習が困難な留学生を中心に、暗誦・解説・筆写を主にした祖典講読の予備授業を開催している。		
④教育の質と能力向上にむけた取り組み 他教員の講義への参加		平成25年4月 ～平成29年3月	自らの授業方法などの確認や教授法についての知見を得るため、他教員の講義に受講生として参加している。		
◆授業評価 ・授業評価アンケート		平成29年度前期	毎年度、受講生による担当授業科目の評価アンケートが実施されている。アンケート結果では、理解度や授業内容に関する満足度が75～80%程度となっている。		
2. 作成した教科書、 教材、参考書					
・弘法大師の著作(祖典)に関する解説資料の作成		平成25年4月 ～現在に至る	上述の祖典講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの授業において、該当講義で取り上げる弘法大師の著作(祖典)の内容を解説した教材を作成して学生に配布し、授業において活用している。また、概論的な知識の少ない受講生(特に編入生等)には難解な内容となるため、毎年度修正を行っている。		
3. 教育方法・教育実践					

<p>に関する発表、講演等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成30年度教育職員免許状更新講習講師</li> </ul>	<p>平成30年6月 平成30年8月</p>	<p>平成30年度教育職員免許状更新講習講師（和歌山大学：選択科目）にて、「教義と実践—弘法大師の思想を通して—」と題し、宗教の教義はその背後にある実践性と不可分であること、また弘法大師空海思想は人間存在についての考察と密接に関わるものであることを講義した。平成29年度教員免許状更新講習における選択科目講師として、「教義と実践—弘法大師空海思想を通して—」と題した集中講義を行った。</p>
<p>4. その他教育活動上 特記すべき事項</p>		

学会等および社会における主な活動		土居夏樹
平成25年4月～		密教研究会幹事
平成25年4月～平成27年3月		高野山同学会事務局
平成25年4月～平成27年3月		高野山大学密教学会事務局
平成29年6月～		日本印度学佛教学会（評議員）
平成29年9月～		空海学会幹事
大学行政への係わり（所属委員会）		
H25.	4～ 3	拡大広報委員会（IT委員会）
	4～ H27. 3	密教文化研究所協議会 ※専従研究所員・任期2年
	8～ 9	教育目標検討委員会
	9～ 10	大学改善検討チーム
	10～ 11	新学科検討委員会
	11～ 12	人間学科設立準備委員会
H26.	2～ 4	ダライ・ラマ法王招聘事業実行委員会
	4～ 7	規則類整備特命係
H27.	4～ H28. 3	学生募集委員会
	7～ H29. 3	学生部協議会（就職担当・任期2年）
	7～ 9	日本印度学仏教学会第66回学術大会実行委員会
	8～ H28. 2	130周年記念事業検討委員会
	10～ H28. 3	密教学科新カリキュラム策定ワーキンググループ
H28.	4～ 10	130周年記念事業準備委員会
	4～ 3	学生募集委員会
	4～ H29. 3	密教文化研究所協議会（兼任研究所員・任期1年）
	5～ H29. 3	なんばサテライトキャンパスワーキンググループ
	7～ 11	ダライ・ラマ法王招聘事業実行委員会
H29.	4～	密教学科主任（任期3年）
	4～	別科主事（任期2年）
	4～	教務委員会
	4～	学生部協議会（就職担当・任期2年）
	4～	学生募集委員会
	4～	難波サテライト教室運営委員会
H30.	4～	教務委員会
	4～	学生募集委員会
	4～	難波サテライト教室運営委員会